

## 国政を担う女性たち：内なるエンパワーメントの力

チェイク（ブータン）

### 「12名の男性候補者を破り圧倒的勝利」

ブータンは九州とほぼ同じ大きさの小国ですが、何世紀にもわたりその独自性を維持することができたのは、外界から比較的隔絶された状態にあったのが理由の一つです。

ブータン王国憲法では男女平等が謳われており、他の開発途上国の多くと比べても、女性があらゆる面において自由で平等な生活を送っています。とはいえ、2015年12月16日付の主要紙『クエンセル』は、「ブータンにおける男女格差は南アジアで最低レベルにある」と報じました。

1998年に出された国王勅令では、女性の政治参画の重要性が明確に示されています。にもかかわらず、女性が指導的立場に立ち、政策決定に関与することが著しく少ないのが現状です。



女性国会議員たち

2008年に行われた初の国民議会（下院）選挙では、議席に占める女性の割合は14%に過ぎませんでした。続いて第2回国民議会選挙では、初の女性大臣が誕生したとはいえ、

当選した女性議員の割合はわずか8%にとどまっており、悲惨な状況にあります。

一方、民主政権下初めての地方選挙では、史上初となる女性郡長（ガップ：Gup）が誕生しました。これを皮切りに、第2次地方選挙では女性の当選者が着実に数を伸ばし、2名の郡長と24名の助役（ミミ：Mangmi）が選出されました。その主な要因となっているのが、ノンフォーマル教育（NFE）プログラムの実施です。NFEプログラムによって女性の識字率が向上し、地方選挙に立候補するための学歴要件を満たすことができるようになったからです。

同様に、女性のエンパワーメント・ネットワーク（BNEW）による努力に負うところも大きいと言えます。BNEWは女性の意欲を引き出し能力向上を図るために、全国で草の根レベルの活動を行っています。



選挙運動および公開討論会の合間に

また、国家評議会（上院）選挙でも国民議会（下院）選挙と同様の傾向が見られ、2008年の選挙における女性候補者数は6名、2013年は4名、2018年は8名でした。このうち、直近の2018年の選挙において当選した女性議員はわずか2名でした。そのうちの一人、ブータン東部のモンガル県から立候補

したソナム・ペルゾムさんは、12 名の男性候補に大差をつけて圧勝しました。

女性の政治参画が低調なのは、主に人々の持つステレオタイプ化した概念に縛られた社会的・文化的・伝統的信念に起因しています。国民の教育レベルの向上と理解の深化により、“Ke-Rub-Gu”（男性は女性よりも9世代分優れている：女性は9回生まれ変わらないと男性になれない）といった差別的な迷信の影響は薄れてきました。とはいえ、ブータンではいまだに女性が指導者となり、政治に参画する能力は低いと思われるのも事実です。

しかしソナムさんは、このような社会通念に屈することなく、女性の権利のために戦いました。

「人権の問題として、そして社会的正義を得るための条件として、私は男女平等の実現に強い関心を抱いてきました。その想いに背中を押され、国民の代弁者となるべく立候補を決意したのです」とソナムさんは語ります。

いまだに人々の考えは固定的な社会通念に深く根差しているため、それを打ち砕き民衆を説得するのは容易なことではないと、ソナムさんは感じたそうです。

さらに大変だったのが、遊説や公開討論会のために各地を奔走してまわることでした。選挙区であるモンガル県内の村の数は国内で最も多く、そのほとんどが車で走行可能な道路から離れています。そのため徒歩での移動を強いられるのですが、これが想像を絶するほどの体力を要するのです。



集会に参加する女性たち

「遊説に生後7か月の我が子を持ってまわることが一番大変でしたが、それを強みに変えることができました。たとえ今回落選していたとしても、無駄ではなかったと思います。女性の存在に光を当てることに繋がったはずですから。」

最初は有権者の支持を得ることができずに苦労したものの、選挙戦を通じ、男女に能力差などないということの人々に納得してもらうことができた、とソナムさんは言います。国王のため、国のため、そして国民のために尽力するという彼女の決意と、自分らしく選挙戦を戦う姿勢が、有権者の信頼を勝ち取ったのです。



「ダル」と呼ばれるスカーフの授与式にて



女性が政策・意思決定に参画し、指導的立場に就くようになれば、それを可能にしたとして男性に対する評価も高まります。

ソナムさんの父親は、娘の挑戦をサポートしてきました。有権者との交流を深める集会のために選挙区内の各地を巡回する娘に、自身が亡くなる2週間前まで付き添い続けたのです。また夫のツェリン・ドルジさんは、妻であるソナムさんに、社会全体に影響を与えるような行動を起こして欲しいとかねてから願っていたそうです。

「有能で将来性のある女性を家に閉じ込めておくのは、良くないことだと感じていました。ですから、選挙に出馬した妻を全力で支えようと決めたのです。」とツェリンさんは言います。

今日、この国の人口の半分は女性が占めています。そのため、政治の分野に女性の視点を採り入れることで、議会制民主主義がより良く機能するはずだとソナムさんは信じています。国の最高の意思決定機関である国家評議会における民意の代弁者として、ソナムさんが重点的に取り組みたいと考えているのは、農業政策の見直しと推進、薬物乱用に関する調査、若者の失業問題、政治における女性の過少代表の問題などです。



選挙区での集会

国会議員に占める女性の割合が 15%以下である国は世界に 73 国ありますが、ブータンはそのうちのひとつです。しかし、南アジ

ア地域にある多くの開発途上国と比べると、状況は比較的良い方だといえます。ソナム・ペルゾムさんは、今後 5 年間にわたり国家評議会議員として祖国のために尽くします。そうすることで、重要な意思決定に積極的に関与し、それに従って行動するよう、多くの女性の意欲を掻き立てるような存在となるでしょう。



国王から「ダル」と呼ばれるスカーフを下賜されて

